



## 今の私にできること

北海道札幌国際情報高等学校 2年 土田 向夏花

「高校生の私にできることを見つけたい。」そう心に決め、私は再びラオスへ飛び立った。訪れたのは、不発弾の処理を行う UXO Lao。ベトナム戦争の際に落とされたこれらの不発弾は、今でも年間数十人の死傷者を出す恐ろしいものだ。そこで見たビデオの中で、私は一人の少年と出会った。まだ小学生くらいのその男の子は片目の視力と片腕を失っていた。視力は病院に行けば回復したかもしれない。でもお金がなく、病院に行くことすらできなかったのだ。そして、得意だった勉強も出来なくなった自分をやるせなく思うように「I can't enjoy myself」と言った。

何かしなければと思うと同時に、今の自分ではあの男の子の力になれないのが分かった。過去の私も、「ラオスの方々が不発弾で苦しんでいることに無関心でいたくない。」と感じていたはずだ。でもいざもう一度ラオスを訪れると、動けていなかった自分に気が付いた。もっと身近なところから動く必要があるかもしれない。変わらなければと思った。

今私がすべきことは、自分からラオスが抱える問題を調べ、ラオスの人々の心に寄り添うにはどうしたらいいか考えること。そして考えを共有しながら向き合い続けることだと感じた。しかし、この目標は一人の力で達成できるものではない。だからこそ、今回出会えた経験も発想も豊かな仲間たち、JICA の職員の方々の力を借りてそのつながりの中で考えを深めていきたい。将来あの男の子の役に少しでも立てる人となるために。